

変化の時代に、進化で挑む。 Fukushima Dynamism

学長 佐野 孝治

President SANO Koji



歴史の転換点ともいえる東日本大震災と原子力発電所事故から15年が経過し、福島の復興・再生は着実に歩みを進めています。福島大学は、震災以降、被災地にある国立大学として、復興・再生に向けた学術研究と地域との協働を積み重ねてきました。

その一方で、自然災害の頻発、国際情勢の不安定化、AI技術の急速な進展など、社会はいま大きな変革のただ中にあります。先行きが見通しにくい時代だからこそ、既存の枠組みにとらわれず、新たな価値を創り出す力が求められています。

福島大学では、令和6年9月に策定した「福島大学グランドデザイン2040」のもと、「変化の時代に、進化で挑む。Fukushima Dynamism」を掲げています。震災と原子力災害の経験から得た知見を「復興知」として体系化し、教育・研究・地域貢献を一体的に展開する「知の共創拠点」として、さらなる進化を目指します。

令和7年1月には、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に連携大学として、同年3月には「内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業」にそれぞれ採択されました。いずれも、共生システム理工学類附属水素エネルギー総合研究所が推進する水素などのクリーンエネルギーを核とした研究であり、グローバルな水素社会の実現に向け、大学を挙げ研究活動に取り組んでいます。また、福島国際研究教育機構（F-REI）との連携も一層強化しており、令和8年度には、本学が代表を務める研究6件、コンソーシアムとして参画している事業3件が進行しています。

さらに、旧金谷川小学校を活用した「イノベーション・commons」の整備を進め、研究機能に加え、地域・企業・学生が交わるインキュベーション拠点として、新たな価値創造に取り組めます。

福島大学は、令和9年度に学士課程再編を予定しています。これまでの3学群5学類制を4学部制へと改組し、高等教育のエコシステム構築を目指した組織へと進化させます。各学部における高度な専門教育に加え、学部の垣根を越えた分野横断型の教育カリキュラム「共創知教育」を柱に、課題を自ら発見し、多様な主体と協働しながら解決へ導く「イノベーション人材」を育成します。

人口減少の進行をはじめとする様々な課題を、私たちは挑戦の機会と捉えています。地域・企業・研究機関との連携を一層強化しながら、新たな価値の創出に取り組み、研究・教育・社会貢献を一体的に推進することで、「地域から必要とされ、世界に信頼される大学」として、東北・北関東における確かな存在感を示す「知の共創拠点」へと発展してまいります。

福島から未来を創る—その実現に向けて、皆さまとともに、前向きに、着実に歩みを進めてまいります。今後とも、本学へのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

現代社会は「VUCA」（予測不能、不確実、複雑、曖昧）と呼ばれ、気候変動や大規模災害の頻発、急激な人口減少・少子高齢化、そして昨今の物価高など、多様な問題が生じています。一方で、AI技術の発展やDX・GXを活用した生産性向上は希望の光であり、技術革新をけん引し社会問題を解決・緩和できる人材の育成が大学に強く求められています。

本学は、創立以来6万6000人もの優秀な人材を世に送り出し、75年以上の長きにわたって地域を支える役割を果たしてきました。また、東日本大震災や東京電力福島第一原

子力発電所事故以降は、創意を凝らした復興支援プロジェクトがいくつも生まれ、その先端的な取り組みが、国内外から高く評価されています。

急激な社会の変化に直面する中で、10年後、20年後の地域の将来像を描き、大学への期待に応えるため、2040年までに取り組むべき目標を「福島大学グランドデザイン2040」として策定しました。私たち福島大学は、変化に対応できる「強い大学」を築くために今後も努力してまいります。



2段階改革 段階的に改革を実施し、「時代にあった」福島大学を創ります。

[2027改革] 人文社会系、附属学校園の再編と理・工・農機能強化 ▶▶▶▶▶ [2031改革] 全学的研究機能の強化(予定)

- 人間発達文化学類を「教育学部(仮称)」に転換し、人材育成に特化
- 行政政策学類と経済経営学類を統合し、「政経学部(仮称)」を新設。人材育成理念を統一し、社会実装の課題に対応
- 附属小学校と附属中学校を統合し、「附属義務教育学校(仮称)」に
- 学生・教員数の重点化および研究分野の絞り込みによる理工農機能の強化
- 協働的研究指導体制を実現する大学院の改革
- 外部研究資金獲得のポテンシャル向上
- 産学官連携の強化

※本冊子に記載の学士課程改革の構想は、今後、文部科学省等関係者と調整の上、2026年度に文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。
なお、構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。

新学長の就任

令和8年4月より福島大学の学長が交代しました。
令和8年3月31日、三浦浩喜前学長の退任式および役員等退任記者会見を行いました。三浦浩喜前学長は、「地域と共に21世紀の課題に立ち向かう大学」をスローガンに掲げ、震災復興を踏まえた教育研究の推進や、地域課題解決に向けた実践的な人材育成、学士課程改革の検討などを進め、本学の発展を牽引しました。

その歩みを引き継ぎ、同年4月1日に佐野孝治学長が就任され、就任式および役員等就任記者会見を実施しました。会見では、就任の挨拶とともに今後の福島大学の将来像について示され、新たな体制のもとで福島大学がスタートしました。佐野学長は、「研究で社会を変える大学」として、福島大学の強みを伸ばしながら、知の共創拠点としての大学づくりをさらに推進する方針です。



役員等退任記者会見で退任挨拶をする
三浦前学長



役員等就任記者会見で抱負を語る
佐野学長

連携研究拠点「MITATE Lab. Post Fukushima Studies」開所

「MITATE Lab. Post Fukushima Studies」は、フランス国立科学研究センター(CNRS)が世界各地に展開する連携研究拠点(International Research Laboratory: IRL)の一つとして採択された研究事業です。日本とフランスを中心とする研究者が協働して、国際的かつ学際的な研究を進めることで、東日本大震災がもたらした結果とその複雑性を、人間と環境の両方の観点から探求することを目的としています。福島第一原子力発電所事故後、フランスの環境科学および社会科学の研究者とともに進めてきた共同研究を受けて、令和7年からCNRSが世界各国で展開する連携研究拠点(IRL)として採択されました。

同年6月23日、MITATE Lab. Post Fukushima Studiesの開所にもとない、各関係機関から代表団をお迎えし、福島大学環境放射能研究所において、「フランス国立科学研究センターおよびフランス原子力代替エネルギー庁との学術交流協定」の調印式を執り行いました。

「MITATE Lab.」では、これまで福島大学とフランスの研究機関との間で蓄積されてきた研究の成果を基盤に、総合的研究を展開します。

この研究事業の進展により、福島の復興につながる重要な知見の発掘と地域・国際社会へのさらなる情報発信が期待されます。



定例記者会見にて「MITATE Lab.」開所の発表をする環境放射能研究所 脇山准教授(左)とセシル・浅沼＝プリス協力研究員(フランス国立科学研究センター(CNRS)研究員、フランス国立日本研究所(右))



調印式での集合写真

発酵研究による地域素材の活用と商品化

食農学類附属発酵醸造研究所では、地域の農産物や発酵文化を活かした食品研究・商品開発を進めています。

■純米吟醸酒の醸造

食農学類附属発酵醸造研究所(IFeS)と未来農業(株)(福島市松川町)および鈴木酒店(双葉郡浪江町)との産学地域連携チームが取り組んでいる酒米・日本酒開発研究プロジェクトの一環として、開発した新系統の酒米を使って純米吟醸酒を醸造し、学内に限定販売いたしました。

「酒米の王様」と称される酒造好適米品種(山田錦)を親株として作成された変異株の中から、緯度が高く冬の訪れが早い福島地域でも栽培しやすい「早生」系統と、雨風による倒伏に強い「短稈」系統を選抜し、これらを交配することで両方の優れた特性を併せ持つ「早生短稈」系統を育成しました。この新品種は、地域産学共同研究でIFeS設置当初から開発を行ってきたものです。



販売した純米吟醸酒

■古代米「白早生」の特性を生かした糀みそ

食農学類附属発酵醸造研究所と附属農場では、近代育種品種にはない個性・特徴を持ち、福島に所縁のある古代米在来品種「白早生」の復刻栽培と、地域の農業法人と醸造企業の協力を得て「白早生」を用いた発酵醸造食品の開発研究を進めています。そのなかで、発酵特性を生かした個性ある味わいの糀みそを醸造し、学内に販売いたしました。

令和7年に附属農場で栽培し、未来農業株式会社(福島大学発ベンチャー)のご協力により収穫・精米をし、会津天竺醸造株式会社にて醸造試験を行い、今回の10割糀味噌「白早生糀みそ(白)」の製造販売が実現しました。

令和8年6月、学内の生協購買にてパック詰めのみそ(300gパック160個)を限定販売し、さらに食堂では具沢山味噌汁「ごちそうみそ汁」や味噌を使った料理「豚みそチーズ丼」として販売しました。



福島大学生協売店で販売した「白早生糀みそ(白)」

バス停「福島大学」の設置・福島大学ラッピングバス運行開始！

福島大学では、「福島県北圏域地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、令和7年10月より大学構内に新たなバス停「福島大学」が設置され、JR福島駅東口からの路線バスの増便が実施されました。

これにあわせて、福島大学ラッピングバスの運行が開始されました。車体デザインには大学の頭文字「F」をモチーフとしたデザインや、公式マスコットキャラクター「めばえちゃん」があしらわれており、令和7年10月1日より、福島市内の複数路線で運行されています。

また、運行開始に先立ちお披露目会が開催され、大学関係者や福島交通株式会社関係者が出席しました。あわせて、ラッピングバスの運行を広く発信するための写真の公募もおこない、多くの方からの応募をいただきました。ご応募のあった写真は、大学ホームページでも紹介しています。



ラッピングバスのデザイン



応募のあったラッピングバス写真のページはこちらからご覧いただけます。



福島大学改革フォーラム2025を福島大学と郡山市で開催

福島大学は令和6年10月にお示した「福島大学グランドデザイン2040」をもとに、学士課程を現行の3学群・5学類から4学部・3学科1課程に再編し、令和9年度から学生を受け入れることを目指して検討を進めております。

本改革を進めるにあたり、受験生・地域の皆様にひろく内容をご理解いただくため、福島大学改革フォーラム2025を、福島大学と郡山市内の2か所で開催いたしました。

■福島大学での開催

令和7年6月14日(土)、本学のL4教室にてフォーラムを開催しました。三浦学長(当時)より「グランドデザイン2040」および学士課程改革概要について説明を行ったあと、新学部の詳細について、牧田実人間発達文化学類より教育学部(仮称)の説明を、今西一男行政政策学類と熊沢透経済経営学類より政経学部(仮称)の説明を行いました。

閉会後は現役の大学生による相談ブースを設置し、高校生やその保護者などの来場者が、大学生による普段の生活や研究についての説明に耳を傾けていました。

本フォーラムには、高校生やその保護者、同窓生、企業関係者など約143名が参加し、関心を寄せた多くの方々に参加いただきました。



本学で開催したフォーラムの様子

■郡山市・ホテルハマツでの開催

令和7年9月13日(土)に「大学改革フォーラム2025 in 郡山」をホテルハマツおよびオンライン配信のハイブリッド形式で開催し、学士課程改革の概要について広く説明を行いました。

当日は、三浦学長(当時)より「グランドデザイン2040」および学士課程改革の全体像について説明が行われ、続いて各学類長等から、新たに設置を予定している学部構想や教育内容、入試の方向性について紹介がありました。

また、「地域の課題にどう立ち向かうか」をテーマとしたパネルディスカッションでは、教員および卒業生が登壇し、教育・研究・地域連携の在り方について意見交換が行われました。会場およびオンラインではリアルタイムでの質疑応答も行われ、多くの質問が寄せられました。

さらに閉会後には、現役大学生による相談ブースを設置し、高校生や保護者が大学生生活や学びの内容について直接学生から話を聞く機会となりました。

本フォーラムには、高校生、保護者、同窓生、企業関係者など約130名が参加しました。



ホテルハマツ（郡山市）で開催したフォーラムの様子



福島大学「学生ジャーナリスト」

福島大学では、令和2年に学内の魅力を発信するチーム「学生ジャーナリスト(通称:GJ)」が結成され、現在86名の学生メンバーと職員と一緒に活動しています。放送班、SNS班、写真班、めばえ班、翻訳班の5班で構成され、各班が協力し合いながら、大学公式マスコットキャラクター「めばえちゃん」と共に、学内外に向けて「顔の見える大学」として、学生ならではの視点・立場で広報活動を行っています。学内の様々な人・団体を紹介する15分間のラジオ番組「めばえのたね」(通称:めばラジオ)、SNSを使ったクイズ企画、福島大学公式YouTubeチャンネルで「めばえちゃん」が様々なことに挑戦する動画企画、Instagramを使った福島大学フォトコンテストなど、幅広い活動を通して福島大学を盛り上げています。



福大祭でのステージ発表